

し作業及び、診断時の検体と依頼箋のミスマッチがなくなることが強く示唆され、日常診断業務における多くのリスクを回避することができると思

えられる。

更新時の病理部門システムには、医療安全を確立するために、バーコード運用の導入が必須である。

活動報告 —院内勉強会について—

リハビリテーション課 鈴木 耕太郎 櫻井 佳代子
大内 英一 五十島 将人

I. はじめに

リハビリテーション課では、平成22年から病棟看護師、外来看護師、看護助手を対象に勉強会を開催している。

平成23年度も6月から10月にかけて病棟でのリハビリや患者援助に必要な技術について月に1回のペースで開催したのでここに報告する。

II. 勉強会開催の過程

平成21年9月にリハビリ部門と病棟との連携強化のため「歩行や基本動作の介助方法指導等、看護師対象に勉強会を開催していく」ことを課の短期目標として掲げた。

外来-病棟連携チーム（看護師サイド）より主に新人看護師対象に基礎的知識を深めることを目的にリハビリ課へ勉強会開催の依頼があった。

以上により勉強会を開催するに至る。これら以外にもリハビリ課として「できるADL」と「しているADL」の差を少なくしたいことや、看護師からは具体的にリハビリ室でどのようなリハビリをしているのか知りたいといった背景もある。

III. 勉強会内容

場所：別館3 Fリハビリ室

期間：6月～10月 第4木曜日

時間：一部17:15～18:15

二部19:00～20:00

約20～30分講義、その後実技を行う。

対象：8-2病棟、7-2病棟、6-3病棟、外来ブロックの看護師及び看護助手

アンケート：勉強会終了後無記名で記入

参加人数が5人に満たない場合は開催しないこと

とした。

IV. テーマ

6月：歩行補助具と介助方法

7月：起居動作、移乗動作の介助方法

9月：ROM-ex・筋トレについて

10月：肩、肘、手指疾患のリハビリ

講義の最初に担当療法士が勉強会資料を配布、講義をして、その後4、5名ずつグループになってもらい実技を行った。6、7、9月は理学療法士が担当し、10月は作業療法士が担当した。

V. 参加人数

歩行補助具と介助方法では一部16人、起居動作、移乗動作の介助方法では一部23人、ROM-ex、筋トレは一部14人、肩、肘、手指疾患のリハビリでは一部20人、いずれの場合も二部は参加人数が5人に満たなかったため開催しなかった。

VI. アンケート結果

以下、勉強会後のアンケート結果の一部を紹介する。

- ・歩行や基本動作の介助方法、それぞれの疾患のリハビリの進め方を理解することができた。
- ・実際にリハビリを自分達でやってみることで患者さんの大変さや効果的な指導方法が分かった。
- ・二部構成で参加しやすく1時間という時間も丁度良く実技の時間がありわかりやすかった。以上のように概ね好評であった。
- ・総論だけでなく具体的に個別の症例についても説明して欲しかった。
- ・実技の時間をもう少し長くしてもらいたい。

といった意見もあった。

VI. おわりに

平成22年度より看護師、看護助手を対象に勉強

会を実施した。

平成22年度、23年度とも勉強会を評価する意見が多く、そのニーズは高いと考えられるので、今後も定期的かつ継続的に開催したいと思っている。

バンコマイシンの薬物濃度解析業務について

薬剤部 堀江 則友 矢野 佳孝

I. はじめに

薬剤にはそれぞれ治験の結果を基に定められた用法・用量がある。しかし、同じ用法・用量でどの患者も同じ効果が得られるわけではなく、患者の臨床症状に応じて検討、調節していかなければならない。適切な治療効果を得るため、血液中の薬物濃度を実際に測定し投与量の調節を行うべき薬剤がある。たとえば、抗菌薬、強心薬、抗てんかん薬、抗不整脈薬、免疫抑制薬などがあげられる。そのような薬剤を使用している患者に対し、治療効果や副作用に関する様々な因子をモニタリングしながらそれぞれの患者に個別化した用法・用量を設定することを薬物治療モニタリング（TDM, Therapeutic drug monitoring）といい、薬剤師の専門性を発揮する業務の1つである。

II. TDM実施薬剤について

薬剤部では約2年前から薬物濃度解析のチームを立ち上げ、現在は抗MRSA薬のバンコマイシンを対象として業務を行っている。バンコマイシンは効果的な濃度の治療域が狭く、腎機能障害などの副作用が出現しやすくなる濃度の中毒域が近

接している薬剤で、TDMを必要とする代表的な薬剤である。

III. 業務内容

TDM業務は、医師の依頼を受けて、患者の性別、体重、腎機能、投与量、投与方法、血中濃度、採血時間のデータから専用の解析ソフトを使用して濃度推移を予測し、医師の目標とする濃度域に達するにはどのような投与設計が考えられるかの情報提供を行う。また、薬剤部でバンコマイシンが投与されている患者を調べ、標準的な目標濃度域から離れてしまうと予測された場合は、依頼が来る前でも医師への情報提供を行っている。今後は薬物濃度解析依頼箋を運用し、医師の依頼から薬剤部の情報提供までが記録として残り、情報管理の効率化ができると考えられる。

IV. まとめ

これからも薬剤の適正使用の助けとなるような情報提供ができるように努め、患者の症状改善に貢献していきたい。

石巻赤十字病院業務支援－薬剤師の活動

薬剤部 祖父江 彰

2011年3月11日に発生した東日本大震災において石巻赤十字病院業務支援の薬剤師として派遣されたので報告する。派遣期間は2011年4月9日～15日の7日間であった。

石巻赤十字病院薬剤師業務支援では大きく分け

て院内業務とメロンパンチーム活動であった。院内業務では石巻赤十字病院は院外処方であったが、震災のため周辺薬局が被害を受け、開局していなかったため処方の多くは院内にて調剤していた。

そのため石巻赤十字病院では多くの人手を調剤